

ダルニー

通信

特集 1対1で繋がる顔が見える支援を継続中



ペトナムのダルニー奨学生たち

2p. 未来を切り拓く1対1の教育支援ー大切に紡ぎ、新たな歩みへ

3p. タイ訪問記 山本夏江

4p. ゴスペルが支援に！ サニーサイドゴスペルクラブ大阪

5p. 内向的だった息子が自信を持てるように ～ベトナム元奨学生の母からの手紙～

6p. 通学自転車支援プロジェクトのこれまでとこれから

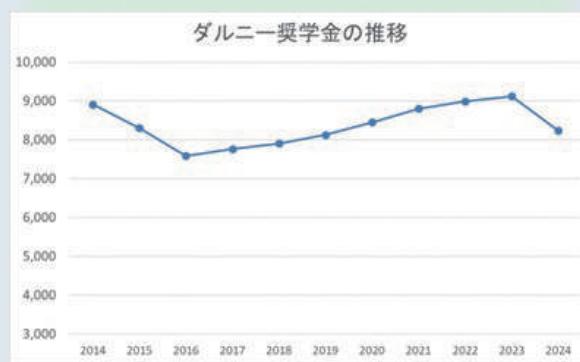
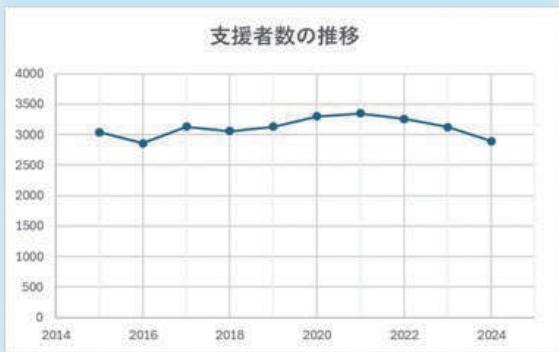
7p. 上田さんの民際コラム②「高所得国入り」を目指す政府

8p. 事務局掲示板+編集後記

未来を切り拓く1対1の教育支援－大切に紡ぎ、新たな歩みへ

平素より民際センターの活動に温かいご支援を賜り、心より御礼申し上げます。本年度も、皆さまからお寄せいただいたご厚意により、東南アジアの子どもたちへ多くの奨学金や教育支援プロジェクトを届けることができております。直近の実績として、のべ45万人の子どもたちに奨学金を届けることができました。38年にわたる歴史の中で、長きにわたり継続してご支援くださっている方々の存在は、私たちの活動の大きな礎です。その継続的なご支援が、私たちにとって何よりの励みとなり、現地で学び続ける子どもたちに確かな希望をもたらしています。

一方で、支援者様の高齢化は確実に進んでおり、健康上の理由や生活環境の変化により、やむなくご支援を終了される方も増えております。その結果、支援者数は2022年以降は微減傾向が続いており、2024年度は3,000名を下回りました。さらに、奨学金口数についても2024年度は前年度比90%にとどまり、減少傾向が顕在化していることは大きな課題です。



こうした状況を踏まえ、積極的な広報活動を通じて若年層やミドル層の支援者拡大を図るとともに、既存の支援者様により一層ご満足いただけるよう、以下の方針で活動を進めてまいります。

活動の見える化、情報発信の強化

活動の成果や現地の子どもたちの様子を、よりわかりやすくお伝えしてまいります。また、現在はホームページとSNS(X, Facebook, Instagram, YouTube)を通じて情報発信を行っておりますが、新たにLINEでの情報発信を検討しております。

支援者様との交流強化

イベントや各地でのフェスティバル出展を通じ、支援者様から直接ご意見を伺い、今後の活動に活かしてまいります。

スタディーツアー

コロナ禍で中断していたスタディーツアーの再開を検討し、現地の教育現場を直接ご観いただける機会の提供を目指します。

今後も「教育こそが、子どもたちの未来を切り拓き、貧困から抜け出す道である」という信念のもと、1対1でつながる教育支援を大切に守り続けつつ、その価値をさらに高めていくことを目指します。そして皆さまと共に歩み、子どもたちが安心して学び、夢を実現できる社会を築く活動を続けてまいります。引き続きのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

公益財団法人 民際センター
理事長 神田 広興

タイ訪問記 山本夏江



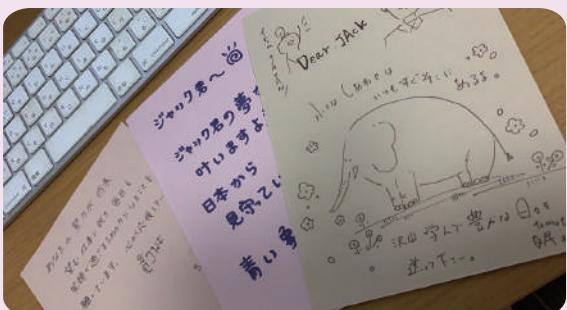
2025年8月、タイのウドンタニー県に向かい、今年からHOPE奨学金の支援をすることになったジャックくんに会うことができました。

ウドンタニー県はイサーン地域（タイ東北部）にあり、静岡在住の支援者でバレーボールを寄付する活動をされている方と毎年訪れている場所です。今年も訪問予定があり、民際センターの事務局にジャックくんの訪問が可能かどうか確認をお願いしていました。進学した学校の詳細が分かったのが出発の1週間前、担当の先生の連絡先が分かったのは3日前でした。民際センターに確認の上、タイでお世話

になっている友人から担当の先生に連絡したところ、面会の段取りをしてもらえ、彼の学校で無事に会うことができました。

ジャックくんの中学時代、ダルニー奨学金の支援をしていたのは私の友人でした。高校に進学するならば継続して支援したいと希望して、民際センターに進学希望調査などの手続きを進めてもらっていましたが、友人はその後体調を崩し治療が必要な状況となりました。そのため、その支援を私のお店(HOKKAIDO Khanom)で引き継ぎ、お店のお客様や私の友人たちに募金を呼びかけ、高校3年間分の奨学金を集めることができました。

ジャックくんに会える可能性が出た時、募金に協力してくれた人たちに大急ぎでメッセージカードを書いてもらいました。それらもジャックくんに現地で手渡すことができ、一番協力してくれた友人とはLINEでテレビ電話も繋ぎました。彼のことを日本でたくさん的人が応援していることが伝わったと思います。



お問合せ先

奨学生訪問をご希望される場合は、下記フォームもしくはQRコードよりお問合せください。

<https://www.minsai.org/request/>



現在、専門学校ではコンピューターの勉強をしているそうです。彼が卒業するまでみんなで見守り、また来年も会いに行きたいと思っています。

ゴスペルが支援に！

歌うことを通して奨学金支援をしてくださっているサニーサイドゴスペルクラブ大阪の代表小西さんにお話を伺いました。



・ご支援のきっかけは？

GQ ファミリー（ゴスペルスクエア・全国のサニーサイドゴスペルクラブ・ネバーランド）は、「Sing in Unity. Live in Peace.」（ひとつになって歌い、平和に生きよう）を活動理念としています。本部の渋谷のゴスペルスクエアがラオスのダルニー奨学金を支援していたご縁で、サニーサイドゴスペルクラブもその活動や理念に共感しカンボジアの子ども達を支援することになりました。実際に奨学生の顔や成長が見えるところが嬉しく 16 年支援を続けています。

・寄付はどのように集めていますか？

サニーサイドゴスペルクラブに通っていただくことが寄付になります。会費の一部に加え、メンバー企画の交流会やイベントで余剰金などが出た場合には全て「カンボジアへ寄付してください」とメンバーから私に預けてくれます。それらを 1 年分まとめて、毎年 7 月に寄付しています。

・大阪の H2O サンタ NPO フェスティバルについて

民際センターの応援団体として、3 年前からゴスペルをお届けしています。歌声はもちろん、支援団体側から見た感想や思いもお伝えしています。民際センターの活動を生の声で知ることができる場でもあるため、私たちも改めて理念を心に刻むと同時に、初めて耳にされる方には「国際協力がとても身近にできること」だと感じていただきたいと思っています。小さな一歩でも、「誰かの役に立てる」ことを、多くの方に知っていただける貴重なイベントに微力ながら参加させていただけることが嬉しいです。

・ゴスペルを歌うこととは？

人生に寄り添ってくれる「なくてはならないもの」。ゴスペルの前向きな言葉のおかげで、倒れそうになっても辛くともどんなことが起きても、乗り越えていける勇気と愛がもらえています。そしてゴスペルは人と人をつなげてくれる音楽。仲間と声を合わせるとき、私たちは音楽を超えて「心」でつながっています。そのつながりは、今や国境を越えてカンボジアの子どもたちへと広がっています。歌うことは、私たちにとって小さな国際協力の一歩です。自分の声が、誰かの未来を支える力になる。の実感こそが、ゴスペルを歌う大きな意味であり、私たちが歌い続ける理由です。

サニーサイドゴスペルクラブ

<https://www.sunnyside-gc.com/>



内向的だった息子が自信を持てるように ～元奨学生の母からの手紙～

2024年度に「SDS（中途退学阻止プロジェクト）」の奨学金を受け取った生徒の母親から手紙が届きました。奨学金を通して息子がどれほど変わったか、家族にとって奨学金がどのようなものだったかを教えてくれました。



民際センターの皆様

私はホアン・AIN・クイの母、ダオ・ティ・センと申します。息子はフンイエン省（2025年7月にタイビン省はフンイエン省に統合されました）ティエンハイ郡ナムタン中学に通っている頃に奨学金のご支援をいただきました。この意義深い奨学金制度を通じて子どもたちへのご支援をいただき、本当にありがとうございます。

息子が奨学金を受け取ることが決まったと知った時、家族は本当に感動しました。私たちにとってこの奨学金は経済的支援にとどまらず、子どものこれから学びの道を明るく照らす心温まる贈り物でした。まるで夢を照らす灯火のように、内向的だった息子が日々自信をつけ、粘り強く努力する姿へと成長していました。

息子は「この奨学金は、自分の努力が認められた証であり、大きな励みになった」と何度も話してくれました。この他者からの承認が困難を乗り越える力となり、学びへの夢と意欲を育む支えとなつたのは間違ひありません。

息子が少しづつ成長し思いやりと信念を持つ姿に、私たち親は胸がいっぱいになり喜びで涙するほどです。子を持つ親にとって、それは何よりの幸せです。現在は中学校を無事卒業し、高校進学という次のステージへの準備を進めております。

奨学金支援という思いやりの灯火が今後多くの生徒たちに届き、それぞれが夢を実現し、将来は社会に恩返しができるような大人へと成長していくことを願っております。

ダオ・ティ・セン（ホアン・AIN・クイの母）





通学自転車支援プロジェクトのこれまでとこれから



ラオスやカンボジアの地方では、中学校の数がまだ十分ではなく、家から学校までの距離が遠い子どもたちがいます。彼らは強い日差しの下で舗装されていない道を何時間も歩いたり、帰り道には暗い道を通らなければならなかったりします。こうした通学の負担から、学校に着くころには体力を消耗して勉強に集中できず、やむを得ず学校を辞めてしまう子どもも少なくありません。このような状況を改善するため、民際センターでは 2014 年より「通学自転車支援プロジェクト」を開始しました。

カンボジアの現状

通学の平均距離(片道) 約 3 ~ 7 キロメートル



通学の平均時間(歩き、片道) 30 ~ 90 分

年平均気温／湿度 約 27 度／約 77%

道路の状態(2022 年度時点)

カンボジア農村開発大臣によると農村部にある約 47,191 キロメートルの道路のうち 17%、約 8,000 キロメートルしか舗装されていません。

子どもたちに自転車を贈ろうキャンペーンの歩み

プロジェクト開始翌年の 2015 年には、ラオスとカンボジアあわせて 226 台の自転車をご寄付いただきましたが、その後 3 年間は年間 100 台前後にとどまっていました。より多くの寄付を集めるために始まったのが「子どもたちに自転車を贈ろうキャンペーん」です。2019 年からは毎年実施しており、この期間中は特に自転車支援に関する情報発信をホームページや SNS を通じて強化し、ご寄付を呼びかけています。

キャンペーン開始以降は、年間で 300 台を超えるご寄付をいただく年もあり、安定して多くのご支援をいただくことができています。これまでにラオスで 1,420 名、カンボジアで 1,233 名の子どもたちに自転車を届けることができました。

皆さまからの温かいご支援が、子どもたちの通学と学びを支える大きな力となっています。今後も一人でも多くの子どもたちが学び続けられるよう、ご支援・ご協力をお願い申し上げます。



ご支援はこちらから



～ライター・ボランティア上田さんの民際コラム～

◀ 第2回：「高所得国入り」を目指す政府 ▶

タイ経済の専門家である上田曜子さんに、経済成長を続けてきたタイの現在の立ち位置と展望について伺いました。発展の陰で、農村部への教育支援の重要性はさらに高まりそうです。

タイ政府が「2036年までに高所得国入り」という目標を打ち出したのは2015年のことです。この目標年が、現在でも維持されているのか不明ですが、高所得国を目指す政府方針に変更はありません。ベトナムとカンボジアも同様な目標を掲げており、それぞれ2045年と2050年を目標年としています。

「高所得国」とは、1人当たり所得の水準がもっとも高い分類に属する国々を指し、先進国と称される国とほぼ一致します。世界銀行は、各国の1人当たり所得を独自に算出し、それに基づいて各国を4グループ（高所得国、高中所得国、低中所得国、低所得国）に分類しています。2024年のデータを用いた基準では、1人当たり所得が13,936ドル以上の国を高所得国と定義しています。タイ（7,120ドル）は高中所得国、ベトナム（4,490ドル）とカンボジア（2,520ドル）は低中所得国に分類されています。私見では、この3国は大胆な目標設定をしているという印象です。

タイは1960年代以降、比較的順調に経済成長し、1人当たり所得は7,000ドルまで上昇しました。ところが、高所得国と高中所得国との間には高い壁が存在し、タイが高所得国の仲間入りを果たすのは容易ではありません。

壁を越えるために必要なのは、タイが自国の研究者や技術者を育成して、技術を開発する能力を持つ国になることです。タイは、技術進歩を外国企業（特に日本企業）に依存してきました。高度な人材育成には長い年数がかかるため、手っ取り早く生産技術を日本企業から導入する方法を採ったのです。日本企業を誘致し、高い技術を使って自動車等の工業製品を生産してもらって輸出するという戦略で、高中所得国まで成長してきた国と言ってよいでしょう。

これからタイが必要とするのは、質の高い教育です。民際センターが支援する子どもたちは、政府目標とは遠く離れた世界に住んでいます。

メコン5カ国の1人当たり所得（2024年）

グループ名	1人当たり所得	国名
高所得国	13,936ドル以上	—
高中所得国	4,496～13,935ドル	タイ（7,120ドル）
低中所得国	1,136～4,495ドル	ベトナム・カンボジア・ミャンマー・ラオス
低所得国	1,135ドル以下	—

2036年までに
高所得国に！

（世界銀行の分類をもとに作成）

上田曜子さん プロフィール

1958年生。新潟県出身。学習院大学卒。同志社大学名誉教授。専門は開発経済学、タイ経済論。民際センターの支援者であり、これまでの経験を活かし現在ライター・ボランティアとして活躍中。

① 特別セミナー開催

9月11日ベトナム事業所所長を迎えての特別セミナーを開催しました。平日の午後でしたが19名の皆様にご参加いただき、ベトナムの教育についてのお話を中心に、事業報告や活動報告もさせていただきました。



② 「プロボノ」募集中

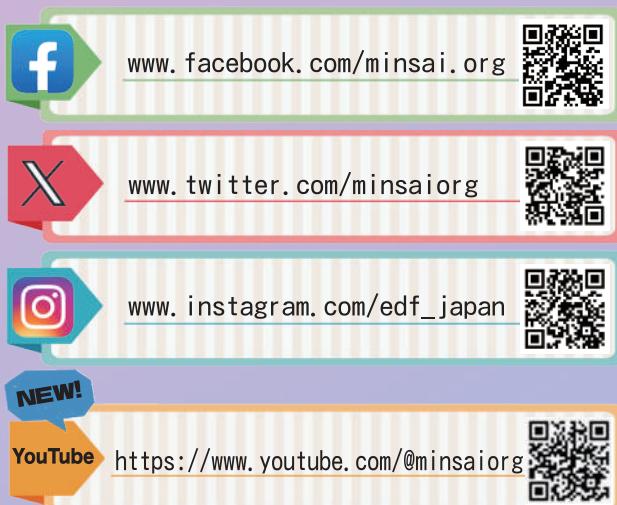
広報資料(チラシやパンフレット)のデザイン、動画制作、動画編集ができる方を募集しています。ご興味のある方は、民際センターまでお問い合わせください。

③ 「支援者の声」を募集しています

皆様の声を民際センターのホームページやダルニー通信で紹介させてください。ご支援された経緯、奨学生とのエピソード等、文章、動画、何でも結構ですので、民際センターまでお寄せください。

④ SNSもご覧ください

SNSでも情報を発信しています。下記QRコードから、ぜひフォローやチャンネル登録をよろしくお願いします。



⑤ 民際センターの活動を支える

「民際サポートプログラム」のご支援を随時募集中

民際センターや各国事業所の事業活動全般の他、支援対象国の教育の現状調査、支援者様への報告やサービス利便性の向上、デジタル化に対応するICT投資等、業計画や活動そのものを支えるために活用いたします。

詳しくはホームページをご参照ください
<https://www.minsai.org/msupport/>



クレジットカードによる自動引落はこちらから
マンスリーサポート(毎月定額のご支援)
<https://www.minsai.org/donate-minsairyoku/>



郵便振替でのご支援はこちらから
ゆうちょ銀行 振替口座 00160-7-664928

計 報

2025年7月29日、民際センター前理事長・児玉忠弘氏が79歳で永眠されました。未来を拓く教育支援に深い情熱を注がれ、私たちの活動を力強く方向づけ、大きな励ましを与えてくださいました。ここに深い感謝の意を表し、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

事務局スタッフ一同

編
集
後
記

5月にはカンボジアフェス・ラオスフェスへの出店、9月にはベトナム事業所の所長を迎えて特別セミナーも開催することができ、少しずつですが外に向けて開かれた組織へと変わることができていると思います。勤務年数が一番長い職員でも6年目という状況ですので、手探りの部分はまだまだ多く、やるべきことも山積していますが、焦らずしかしあ心を込めて取り組んで、さらに風通しのよい団体へとブラッシュアップしていきたいところです。皆様からのご意見などもどしどしあ伺いたいと思っていますので、お寄せいただけると嬉しいです。

▶ 「ダルニー」とは... 民際センターが奨学金を募り1対1の教育支援を始めるきっかけとなったタイの女の子の名前。



公益財団法人 民際センター

〒103-0023 東京都中央区日本橋本町2-6-13 山三ビル7

TEL : 03-6457-5782 / FAX : 03-6457-5783

E-MAIL : info@minsai.org / HP : www.minsai.org